

海陽中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業規律を確保し、わかる授業の実践により学習意欲を育成する。
- ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。（家庭学習の充実）

校長

学力向上推進員

教務主任
 1学年主任
 2学年主任
 3学年主任

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎・基本の知識や技能を問う問題に対しては、真面目に取り組むことができる。 ●基本事項を活用する問題や、自分で考えて表現しなければいけない課題に対しては、諦めてしまいがちである。	①授業に集中して取り組み、基礎・基本的な知識・技能を身につけている。 ②基礎・基本の知識を生かし、活用問題や応用問題にも積極的に取り組むことができる。	①視覚的に学習内容が確認でき、生徒自身が学習の流れや記録を確認できるようICTを活用する。 ②家庭学習を毎日の生活の中に定着させることを目標に、その日・週の授業と関連付けた課題を設定する。	①全国学力調査及び県ステップアップテストの結果から、「書く」力がつくように、自分の考えをメモしたり、相手に伝わるように遂行したりする活動を取り入れる。 ②各教科部会で、ワークなどの教材や授業での活用方法を見直す。	①身近なテーマをもとに作文指導をした。基礎学力テストにおける作文問題や記述問題にも懸命に書こうとする姿勢が見られた。 ②英語科で各領域のバランスがとれた学習活動やその評価方法について見直し、教師とALTが協力して計画的に授業を実施できた。生徒たちの学習意欲が高まった。	①自分の意見や考えの変容の過程が、多様な学習の記録(ノート、ワークシート、図表、メモ、電子データなど)として残せる授業を工夫し、「書く(描く)」力を伸ばす。 ②各教科部会や学年団だけでなく、教師同士で授業の進め方や教材の作り方、生徒への働きかけ方などについて、共通理解を深めていく研修の機会を増やす。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○簡単に正解を求めることができる問題については、意欲的に取り組むことができる。 ●自分の考えをわかりやすく伝えたり、自分で判断して表現・説明したりすることに課題がある。	①自分の考えをわかりやすく説明したり文章表現したりすることができる。 ②自分なりの考えをもち、他者と意見交換をしたり、コミュニケーションをしたりする中で、学びを深めることができる。	①自分の考えを説明したり、他者と意見交換したりする場を授業の中で設定する。 ②考えを説明するために必要な語彙を増やす。読書週間を設定し、多くの言葉や文章に触れることができる機会を増やす。	①徳島版読解力にある「正確に読む力」「必要な情報を取り出す力」が本校生徒の課題であることから、情報を収集する個別活動に偏ることなく、調べたことについてグループで話し合っ、新たな価値を見出す活動を心がける。 ②全国学力調査及び県ステップアップテストの結果から、読書に興味がある生徒が多かったため、町立図書館と連携して読書の機会を増やす。	①今年度の学校評価アンケート(生徒)の結果として、前年度よりもポイントが上回った項目に「授業が分かりやすい(+6.9%)」「話し合う活動を通して理解が進んだ(+9.5%)」が見られ、ペアやグループで学びの共有が進んだことの成果がうかがえた。 ②読書週間のほか、町立図書館の移動図書館の利用日の設定により、日常的に図書室を訪れる生徒や休み時間に読書する生徒の姿が増えた。	①徳島版読解力の育成に向け、自分の考えや意見を、調べた情報や友達の考えと比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、価値を見出す力をつける学習内容を検討する。 ②語彙の量と質を高めるために、小説の一場面や新聞記事などを通して、読み取ったことをもとに、意見交換する学習を各教科で試みる。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○定期テスト前などの与えられた課題については、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて積極的に取り組む姿勢や将来への展望をもって学習に取り組む姿勢に課題がある。	①目標や課題意識をもって意欲的に授業に取り組むことができる。 ②将来への展望をもち、自分なりの目標を設定して学習に取り組むことができる。	①学習計画を立てさせ、個別にアドバイスをしていく。 ②「問い」が生まれる授業を展開するとともに総合的な学習の時間の中でも、外部機関との連携を通して、キャリア教育の充実を図り、将来への展望を持たせる。	①学習委員会で家庭学習時間の調査をしたり、勉強することへの動機づけとなるアンケートを実施し、学習への意欲を高める働きかけをする。 ②総合的な学習で町内の各機関と連携して体験的な学びを進め、自分の暮らしとの関わりを考える問いかけをする。	①学習時間調査やアンケート結果を「学習委員会だより」にまとめ、全校生徒に配布し、授業や家庭学習への取り組みについて考える機会をつくった。 ②福祉、防災、産業など町の各機関と連携して学ぶ機会がたくさんあった。しかし、学校評価アンケート(生徒)では、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある(-10.1%)」の項目が前年度よりも下回り、生徒の自主的な学びとなる動機づけや授業の進め方に改善点があると考えられる。	①体験的な学びの機会を大切に、自分の学びが日常生活や社会に有用であることを実感できる授業を考える。 ②課題・設問に対する自分の考えを説明したり質問したりする活動を通して、「わかる」ことの喜びや「伝える」技能を高める。